



桐蔭キャリア通信 第1号



Toin Career News

和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校 平成26年5月12日発行

「桐蔭は、自ら人生を切り拓く人を育てます」

校長 岸田 正幸

「トビタテ！フォーチュンクッキー留学」APAN」という曲をAKB48が歌い、全国の大学生と文部科学大臣をはじめとした文部科学省の役人がこぞって踊る姿がYouTubeで流れています。文部科学省が、全国の大学に依頼をしたら、本当にそんなことをするのかと各校から問い合わせがあったとのことで、その面白さが受けてか、アクセス数はすでに60万件になろうとしています。もちろん、文科省は本気で作っていて、AKB48を世に送り出した秋元康氏に作詞を依頼して、全国の若者たちに留学を呼びかけているわけです。それほど、若者たちが留学しなくなっている。その背景として、自分の将来が描きにくくなっている日本型雇用の現状の中で、あえて就職などで不利になるかも知れないといった未知

数の指数を上げたくない意識が働いていることは容易に想像できます。一方で、これほど豊かで居心地のいい日本を離れる必要がないというのも大きな要因としてあるような気がします。風が吹けば桶屋がもうかる式の言い方をすれば、ウォシュレットトイレの普及が、若者の留学離れを後押ししているというようなことになるのでしょうか。ますますグローバル化する社会にあって、豊かで暮らしやすい日本社会という現状の中で、こじんまりと生き続けようとする若者をどう鼓舞していくかという課題が浮かび上がってきます。

同時に、家族関係の変容や農村型むら社会の解体といった子どもたちの人間形成に大きな影響を与えてきた育ちの環境が変化する中、子どもから大人になる時期が遅く

なる、或いは一人前になる力が減少しているということも課題です。こうしたことに対し、これまで教育の世界では、常套句的にその理由と思われることがらを指摘し、そこに責任を負わせることにより、終わらせてきたことが多かったように思います。曰く「地域の教育力が低下している」、「家庭の教育力が低下している」といった類のものです。そもそも、家庭の教育力ということについて言えば、私の経験からしても、昔の親は目の前の生活に精一杯で、放ったらかしで育てられた記憶しかなくて、その点、今の親は、若者たちの育ちが変化している中で、親であること責任を社会から常に求められるという辛い立場にある。その社会的責任の問われ方が、「家庭の教育力が低下している」という言説になっているとも言えます。したがって、そうしたことに理由を求めるのではなくて、こうした子ども達の置かれた現状としっかりと向き合い、学校として何ができるかを考える。それが、「キャリア教育」であると、私は考えています。

言い換えれば、大学卒業後の彼ら彼女らの生き方にまで責任をもつ教育をしようという強い意志を示した教育、それが桐蔭におけるキャリア教育であるわけです。そのためには、当然「知力」も育てるべき大きなテーマになりますから、本格実施をする本年度春の入学生からは、「桐蔭の学び」と名付けた各教科の学び方を示した冊子を持たせ、学ぶことの意義という本質的なところまで掘り下げて学習を始めました。自らの将来との関連性、つまり、自分がどのような人生を歩むのかが見えにくい社会にあって、子どもたちの学びに対する意欲の低下、このことこそが最も大きな現代的教育課題であるにとらえているからです。

学歴が将来の安定性を一定程度担保でき

た時代は、努力することの意味がわかりやすかったし、努力の結果として、多くはそれが職業人生に引き継がれていきました。もちろん、現在においてもそうした傾向は残存されてはいますが、かつてに比べれば、その相関は弱まり、反対に勉学的努力とは少し違うコミュニケーション能力や創造力、人間関係形成能力といったようなものが求められる時代となっています。もう少し言えば、勉学的努力の結果としての学歴だけで生きていける時代は既に終わり、社会において、継続的に成果を出すことによってしか評価されない、或いは学び続ける資質を有したものでないと評価されにくい時代になってきています。将来が見えにくいということと併せて、このことは、今の子どもたちに課せられた社会的な重荷であると言えます。加えて、冒頭の留学の話のように、豊かさの中でこじんまりと生きようとする子どもたちが増えてきたとすれば、グローバル化がますます進展する時代も踏まえ、これからの日本はどうなっていくのかと思うわけです。

桐蔭という学校の社会的責任というのは、こうした時代に求められる教育とは何かをしっかりと受け止めることであると思っています。「キャリア教育」は、こうした背景の中で、桐蔭でこそ真剣に取り組むべき教育課題であると考えているわけです。そこで、標題とした「桐蔭は、自ら人生を切り拓く人を育てます」という言葉を本校におけるキャリア教育の目指すべきものとししました。

中学校と高等学校で毎週実施される「キャリア桐の葉」という授業を中心として、具体的な教育が始まります。走りながらではありますが、目指すべき生徒像をしっかりとって、その育成に向けた教育活動に取り組んでいきたいと思います。